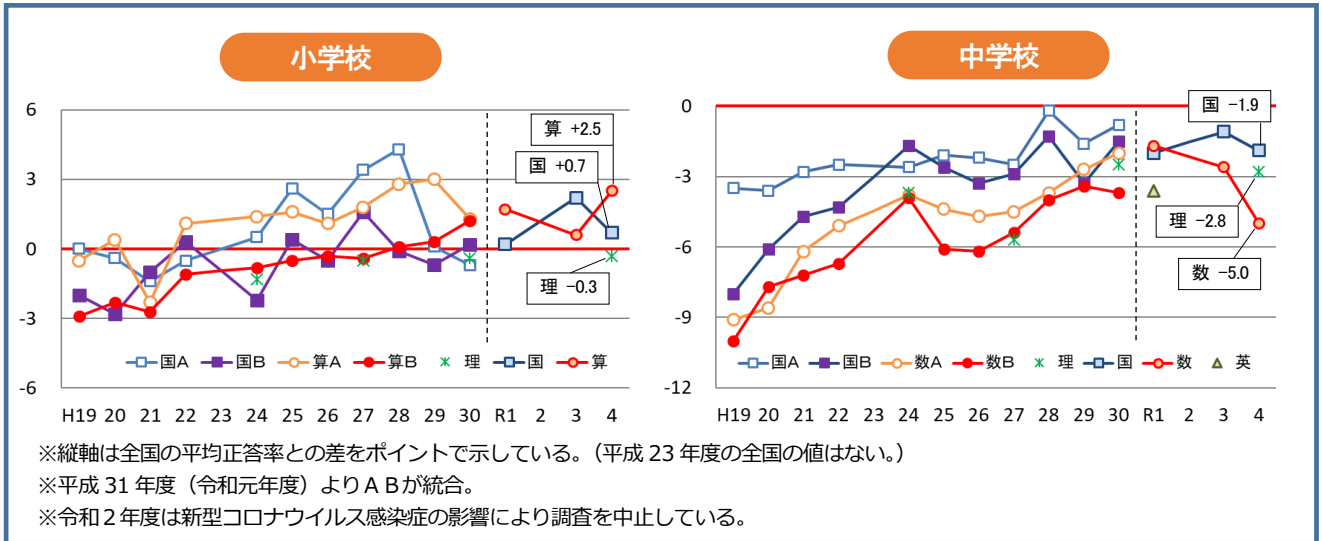


Topics
1

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

本年4月19日に実施した全国学力・学習状況調査の結果が7月28日に公表されました。悉皆調査としては12回目、抽出調査を併せると14回目の調査となり、4年ぶりに理科の調査も行われました。また、中学校は平成29年3月に告示された学習指導要領の指導事項に基づいた調査となりました。

● 教科に関する調査の結果（全国平均正答率との差） ●



- ・小学校は国語、算数ともに全国平均を上回り、特に算数においては、全国平均との差が+2.5ポイントと大きく向上しました。理科は、-0.3ポイントとなっていますが、回を重ねるごとに全国との差を縮めてきています。
- ・中学校は近年全国平均に近づきつつありましたが、国語、数学、理科全ての教科で全国平均との差が広がる結果となりました。

● 授業改善による成果 ～ 説明するなどの思考・判断・表現力等を重視した学習～ ●

【例 中学校 数学】

| 問題形式 | 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 正答率 (%) | |
|------|-------|--------------------------------|------------------------------------|---------|----------|
| | | | | 高知県 | 全国正答率との差 |
| 記述 | 8 (2) | 目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する。 | 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。 | 43.2 | +4.8 |

< 分析・考察 >

問題解決の方法を問う問題に改善傾向がみられる。R3年度全国学力・学習状況調査の大問7(2)県正答率29.3（全国比+1.6）からも向上している。問題解決の方法を「用いるもの」とその「用い方」を明確にして、説明できるようにする指導を重視した授業改善が進んだ成果と考えられる。

- ・中学校数学では、これまで課題であった記述式の問題で、全国平均正答率を上回る問題がありました。
- ・各学校において、根拠をもとに説明するなどの言語活動を重視した授業が浸透してきている成果が表れてきています。

● 学習指導における課題 ～ 意味理解を図る指導 ～ ●

【例 中学校 数学】

| 問題形式 | 問題番号 | 問題の概要 | 出題の趣旨 | 正答率 (%) | |
|------|------|---------------|--------------------|---------|----------|
| | | | | 高知県 | 全国正答率との差 |
| 短答 | 1 | 4 2 を素因数分解する。 | 自然数を素数の積で表すことができる。 | 33.9 | -18.3 |

< 分析・考察 >

学習指導要領の改訂で中学校1年へ移行された内容「自然数を素数の積として表すこと」について、移行のねらいにそった指導改善が不十分であることが考えられる。R3 高知県学力定着状況調査中1大問3「素因数分解について理解していることをねらいとした問題」において正答率53.3であったことから、身に付けておかなければならない知識・技能が十分定着していない生徒が一定数おり、課題改善ができていない状況が考えられる。

授業改善の
ポイント

整数の性質についての理解を深める指導を重視していく



小学校 算数科
「約数や倍数の性質」
数の約数や倍数を
みつける

中学校 数学科1年
「自然数を素数の積で表すこと」
小学校での既習を捉え直す

中学校 数学科2、3年
「文字を用いた式」「数の平方根」
数の性質を使い表現する場面で素因数
分解につながっていることを意識する。

整数に対する見方を広げる

・高知県学力定着状況調査の結果を受けて、改善に取り組んだ学校は成果がみられました。このことから、学力調査をもとにPDCAサイクルを機能させることが学力の向上につながるといえます。

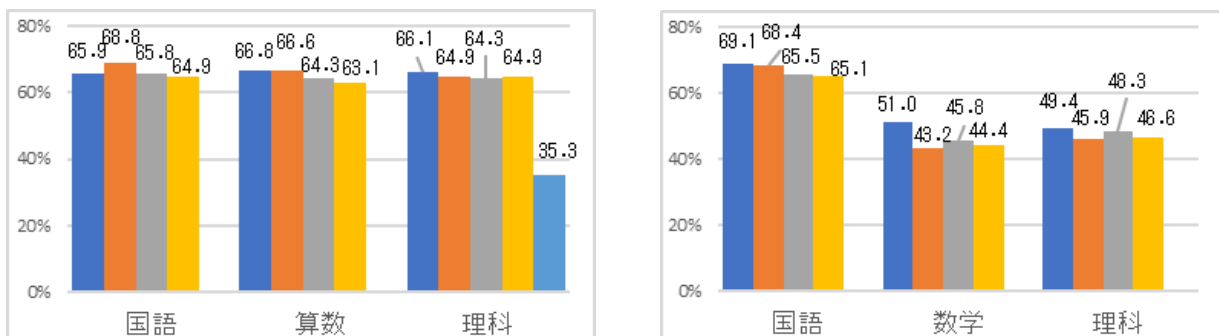
● 授業におけるICT機器の活用 ●

【学校質問紙 (60) (58)】

自分で調べる場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。



調べ学習での活用と正答率との相関 【選択肢ごとの教科（国、算・数、理）の平均正答率】

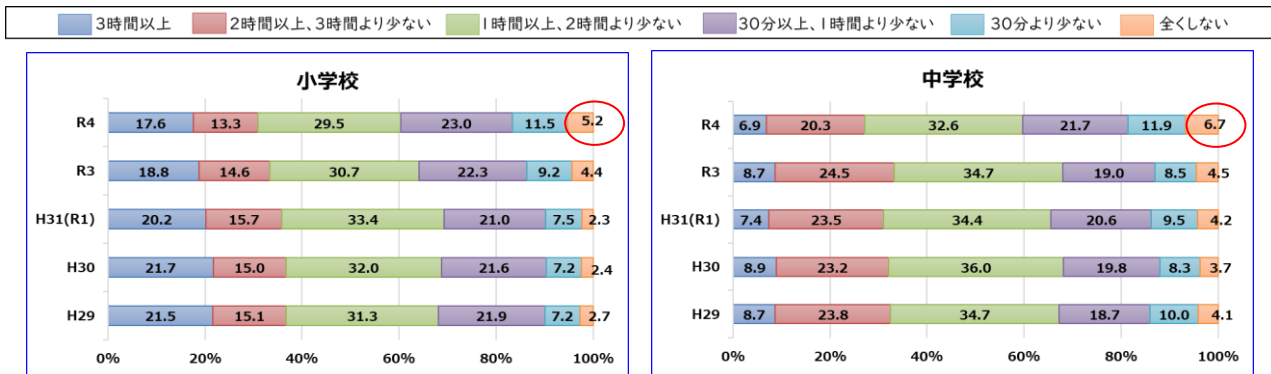


・授業において、児童生徒が一人一台端末等のICT機器を活用しているという頻度が多いほど、平均正答率が高いという傾向が、みられました。日常的な活用や学習場面に応じた効果的な活用がさらに求められます。
・次代を生きる子どもたちに、デジタル社会に対応できる素養を育むことが大事です。子どもたちが、将来においてICTを使いこなす問題解決者となるよう、文房具としての日常的な活用をお願いします。

● 家庭学習に関して ●

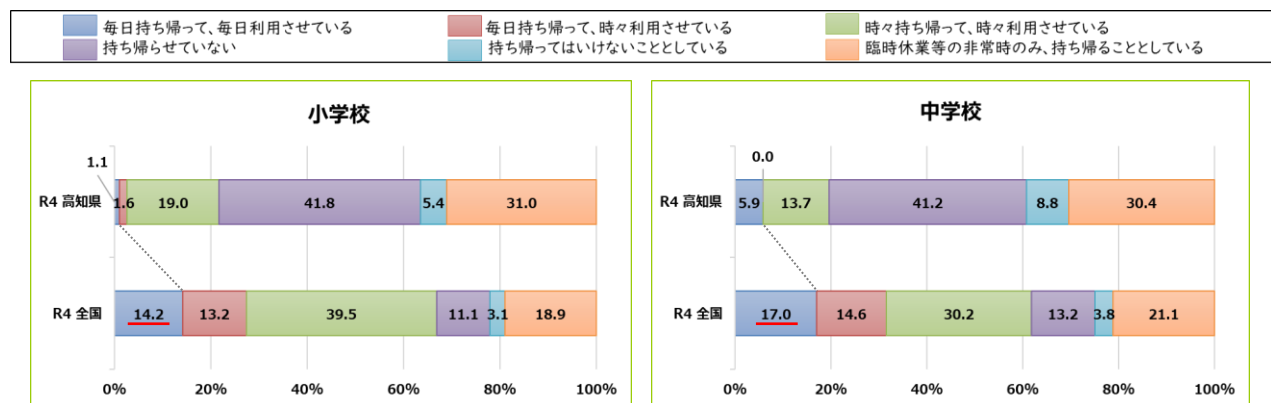
【児童・生徒質問紙（21）】

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。
（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



【学校質問紙（66）（64）】

児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。



- ・ 平日に家庭学習を「全くしない」と回答した小学生が5.2%、中学生が6.7%となっており、経年で比較しても年々全く勉強をしないという児童生徒の割合が増えてきています。また、土曜日や日曜日など学校が休みの日の勉強についても「全くしない」と回答した割合が、年々増加してきている結果がみられました。
- ・ 一人一台端末の利用については、毎日持ち帰って、毎日利用させていると回答した学校は全国と比較して大きな差がみられます。通信環境など、課題もあると思いますが、家庭学習等での活用もお願いします。

教職員の皆様へ

県教育委員会では、今回の調査結果を踏まえて学力向上の取組をさらに進めていきます。各学校の教職員の皆様には、一層の授業改善や教育活動の充実を図っていただくようお願いいたします。

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて
学習指導要領が入口、全国学力・学習状況調査が出口といわれます。再度、学習指導要領の趣旨理解を図ることが肝要です。
- 学びの系統を踏まえた単元づくり
小学校・中学校、そして高等学校へと学びをつなぐことが大切です。小中連携を図りながら学びの系統を踏まえた単元づくりを進めていきましょう！
- 学力定着に向けた学校体制の強化
学力調査をもとに、PDCAサイクルを確立し、学校全体で学力を定着させる仕組みを整えましょう！

目の前の子どもが、自分の望む未来を切り拓いていけるよう、真摯に向き合ってください！！



詳しくは小中学校課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/>



小中学校課 教育支援第一担当
TEL : 088-821-4735

第2回総合教育会議より（学力向上対策について）

9月9日（金）に知事と教育委員会で構成する「総合教育会議」において、本県の学力向上対策について協議されました。小・中学校においては、全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえた今後の緊急対策について、また高等学校においては、基礎学力の定着・向上の取組について協議されました。

小・中学校学力向上対策「R4年度 緊急対策」

- ✓ 学力調査の結果を踏まえた意見交換会の実施（中学校、市町村教委）
- ✓ 「小学校教科担任制・組織力向上アドバイザー」の訪問指導による徹底
- ✓ 数学の学習指導を考える会の実施：数学教員対象（学校1名悉皆）
- ✓ 数学授業改善プランに係る指導主事等の訪問強化
- ✓ 県作成デジタル学習教材の活用促進
- ✓ 学力補完の取組の好事例発信
- ✓ 高知の子どもICT応援プロジェクトの実施
- ✓ 市町村の主体的な学力向上策・学校の組織的な取組の推進



【500人規模の中学校の事例】
全学級でデジタルドリル（終学活の10分間に位置付け）

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 |
|----|----|----|----|----|
| 国語 | 社会 | 数学 | 理科 | 英語 |

成果●プリントでは取り組みにくかった生徒も**意欲的に**
●プリントの配付や採点が必要 → **教員の負担軽減**等

高等学校における基礎学力の定着・向上の取組の方向性

■授業改善・学力向上

- ✓ 新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善の実現に向けた支援強化
- ✓ 1人1台タブレット端末を効果的に活用した授業実践を推進
- ✓ 生徒の学びの自己調整を行う力の育成に向けた取組強化

■学校経営支援

- ✓ 1・2年目の管理職を中心にカリキュラム・マネジメントの進捗管理の実施
- ✓ 学力検査の結果をもとに、各校の組織的な取組への指導・支援の実施



会議での主な発言

【知事】

- ・全国学力・学習状況調査での中学校の結果を深刻に受け止め、これまでの取組を検証したうえで、今後の対策を検討、実施する必要がある。高知の子どもたちが、「学力の問題ゆえに自分の希望の進路を叶えられない」ということはないようにしたい」との思いを強く持っている。各学校において、**組織でしっかりと学力向上の取組**を進めていただくように改めてお願いします。また、**デジタル技術を上手く活用し、家庭学習の定着**を図れないか検討していただきたい。



【教育長】

- ・家庭学習を子どもたちが好んでする方法はアクティブラーニング。それができるようにするためには、まず、**学校の授業がアクティブラーニングにならなくてはならない**。そのためにICTの活用は非常によい。調べ学習と基礎基本の徹底を併せてやっていく必要がある。ICT活用は家庭学習においても有効だが、本県ではまだまだ進んでいないので、そこをなんとか進めていく。

【教育委員】

- ・子どもたちはグローバルな世界で生きていく。もっと英語教育の充実に力を入れてほしい。
- ・家庭学習の時間が急激に減っている。家庭学習のねらいは何なのか、家庭学習を通して基礎学力を形成するためにどのような道筋があるのかということ発信しないといけない。
- ・民間交流して学校現場と一緒に子どもたちに力を付けていくということ、ためらわずやっていけばよい。集落活動センターなどを使って学びの場を設置してほしい。
- ・教育センターでは遠隔補習も実施しており、距離的な学習差が出ない、時間差が出ない取組は今後ますます必要である。少しでも子どもたちに役立つことは積極的に取り組んでいただきたい。

今回、議論されたICTの活用や家庭学習については、子どもたちの将来を切り拓く学びにつながるものです。遠隔授業・補習や家庭への1人1台タブレット端末の持ち帰りなどを含めて、これからの取組の可能性を今後も検討し、施策に反映していきます。



県の教育施策等については、県教育委員会事務局ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/>



教育政策課 教育企画担当
TEL : 088-821-4731

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）推進事業 令和4年度「地域とともにある学校づくり」研修会を開催しました！

学習指導要領の理念の一つに「社会に開かれた教育課程」の実現が掲げられています。この理念の実現のために、これまでの「開かれた学校」からさらに一步踏み出し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を實現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもを育て「地域とともにある学校」へと転換していく必要があります。

そのために、学校と保護者や地域の皆さんが共に知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもの豊かな成長を支え「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みである、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）が有効なツールとなります。

そのようなコミュニティ・スクールの導入促進として、8月2日に「地域とともにある学校づくり」研修会を開催しました。本年度は、学校の管理職だけでなく、教職員や地域の方にも積極的に参加していただけるよう、参集型とオンライン型を同時に行う「ハイブリッド型」で開催しました。

先進的な取組から、新しい情報を得ることができました！（「地域とともにある学校づくり」研修会より）

山口県萩市教育委員会による実践発表

社会総がかりによる 次世代を担うひとづくりをめざして ～コミュニティ・スクールの仕組みを基盤とした ライフキャリア教育の推進～

子どもたちが将来の夢や希望、高い志をもてるようにするためには、進学や就職といった目標をクリアすることだけではなく、「どのような大人になりたいか」「どのように生きていきたいか」「よりよい地域づくりに向けて自分に何ができるのか」ということを考えさせることが大事です。

そのために、自分たちの地域について中学生と高校生などの異年齢で熟議をしたり、地域の活性化のために汗を流す大人と交流したりしています。



高校生と中学生の熟議

「故郷」のよいところを発見



「よさや魅力、課題を自分の言葉で語れる表現力」や「自らを発見し、多様な他者と連携・協働して解決する力」の育成を目指します。

高知市立春野中学校 小川真悟校長による実践発表

持続可能な地域とともにある学校づくり

社会に開かれた教育課程を實現するためには「コミュニティ・スクール」が最適なツールであることや、「コミュニティ・スクール」の最大の強みは「熟議により地域がチームになれる」ことが大事です。

春野中学校は、春野東小学校と春野西小学校の3校で1つの学校運営協議会を設置し、学校を核とした地域づくりを展開しています。

子どもは信頼できる多くの大人と関わることで豊かに成長できる



それを持続可能にする制度

コミュニティ・スクール

学校運営協議会の形骸化をさけるために

①当事者意識をもつ（目標・課題・取組の共有）

○熟議の充実

・全員発言（ワークショップ等）・肯定ファースト

・知恵を出し合う ・子供が主人公

※知恵を出し合い、納得のいく解を見出す

○私たちの学校・私たちの子ども・私たちの町

・情報発信 ・子どもや教育活動に関わってもらう

・地域の未来を語る場 ・具体的な行動

学校運営協議会で行う熟議について

①どんな子どもを育てるか（めざす子ども像）

②どんな地域を創るか（めざす地域像）

③不登校を減らすためにできることは（課題）

④SNSの正しい使用について（課題）

⑤学校と地域が行う防災教育の推進（特色）

⑥郷土学習で何を子どもに伝えるか（特色）

⑦学校と地域が一緒にやれることは（特色）

※意見の出し合いではなく結論を共有する



詳しくは小中学校課ホームページをご覧ください。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310301/>



小中学校課 教育支援第二担当

TEL : 088-821-4735

燃え上がれ我らの闘志 四国の大地へ



7月26日から8月23日の約1ヶ月間、本県においてインターハイが開催されました。本県では実に24年ぶりの開催となりましたが、多くの生徒・教員の皆さんにご協力いただき、大会を終えることができました。

各競技においては、多くの高校生が運営補助員として大会運営を支え、また、各会場では、農業高校等が各競技の開催に合わせて栽培したきれいな花々が会場をあざやかに彩り、出場した選手・監督には、農業・工業高校や特別支援学校の生徒が制作したコースターやお皿、巾着袋、メッセージカード等を配布するなど、おもてなしの気持ちのこもった高知県らしい大会となりました。

そのほかにも、カウントダウンボード製作や各校のPR活動など、昨年度から様々な形で大会を盛り上げていただきました。

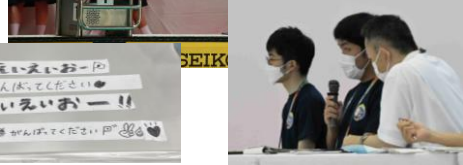
ご協力いただきました先生方・生徒の皆さん、本当にありがとうございました！



インターハイ



活動の記録



高校生活動推進委員会 感謝状贈呈式！

9月21日（水）、第7回高校生活動推進委員会を開催しました。昨年6月から活動を開始し、コロナ禍で制限のある中、大会の成功に向け、各会議やポスター原画選考、広報活動等に積極的に参加してくれました！

最後となる本会議では、これまで取り組んできた活動を報告したのち、高知県実行委員会会長の長岡教育長から生徒委員1人1人に感謝状が手渡されました。

生徒委員の皆さん、2年間お疲れ様でした！



高校生活動推進委員会委員



推進委員会考案
くろしおくん

- ◆生徒委員長：筒井 大貴（嶺北） ◆生徒副委員長：外崎 伶奈（高知小津） 岩目地 由規（高知追手前）
- ◆生徒委員：大原 生衣（高知農業） 島村 奈菜（高知農業） 高嶋 禮（高知工業） 濱永 斐色（高知工業）
川崎 彩香（山田） 小松 愛奈（山田） 田中 飛悠吾（檜原） 田辺 早桜（宿毛）
岡村 和実（高知工業※R3卒業） 上村 春陽（高知工業※R3卒業）



詳しくは四国総体2022公式ホームページをご覧ください。
<https://www.koukousoutai.com/2022soutai/>



問合わせ
保健体育課全国高等学校総合体育大会推進室
高校生活動・広報担当 TEL：088-821-8020



「高知県高校生ヘルメット着用推進シンポジウム」が開催されました！

このたび、令和4年度高知県学校安全総合支援事業（交通安全）の拠点校である、高知県立須崎総合高等学校の主催により、「自転車ヘルメット着用推進」をテーマにしたシンポジウムが、オンラインで開催されました。昨年度に引き続き、2回目の開催となります。

シンポジウムでは、**県内の様々な地域の高校生の代表が集まり**、ヘルメット着用の現状について課題を共有し、**ヘルメット着用の重要性について共通理解を図りました**。



講演では、お子さんが交通事故に遭われた経験をもつ塩見絵里香氏に、交通事故及びその後の経験を通して、母親目線で感じた「自転車乗車用ヘルメット着用の必要性・重要性」についてお話しいただきました。その後、**ヘルメット着用を推進している学校（須崎総合高等学校・室戸高等学校）からの実践発表や高校生によるヘルメット着用推進に向けたグループ・ディスカッション**などを行いました。

会場からは、学校のヘルメット着用率を向上させる方法として、「**地域を巻き込んで啓発活動を行う**」「**ポイントをスタンプカード化し、景品を渡すキャンペーンを行う**」「**まずは、自転車で通勤している学校の先生方に着用してもらい、ヘルメット着用の必要性をアピールする**」など、高校生の率直な意見が多く出されました。



当日は11校が参加



司会のみなさん（須崎総合高校）



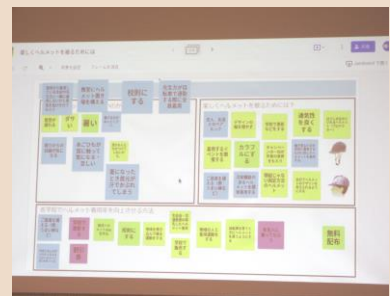
塩見絵里香氏の講演



取組発表（須崎総合高校・室戸高校）



グループディスカッションの様子



ジャムボードによる意見交流

●参加者の感想●

【高校生】

- ・ヘルメットを被ることはメリットしかないので、改めて被らなければいけないと思った。
- ・子どもだけでなく、大人にもヘルメットの着用を呼びかけたらみんなが着用するのではないか。
- ・学校内の呼びかけだけでなく、地域へも呼びかけていくことが大切である。
- ・自分の命を守るといことは、家族の笑顔を守るといこと。
- ・ヘルメット着用については、視点を変え、考え方をポジティブにすることが大事。



【教員】

- ・ユニークな活動やヘルメット着用を地域に広げていく活動など、素晴らしい取組が発表された。
- ・グループディスカッションでは、高校生がヘルメット着用について真剣に話し合う姿が見られた。
- ・着用してみたら意外と苦痛ではなかったとの意見も多かったため、そのような意見の共有と地道な活動を続けることが必要である。

今回のシンポジウムは、高校生が自ら自転車ヘルメット着用の重要性を発信する貴重な機会となりました。今後、**高校生のアイデアから、ヘルメット着用推進に向けた様々な取組が生まれることを期待**しています。



詳しくは学校安全対策課ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/312301/>



学校安全対策課 学校安全担当
TEL : 088-821-4533

Topics
6

第7回高知県特別支援学校技能検定を実施しました！

県では、特別支援学校で学ぶ生徒が、作業学習等の授業を通して身に付けた技能等を、専門的な視点から評価及び認定する、高知県特別支援学校技能検定を実施しています。

新型コロナウイルス感染症の影響が心配されましたが、生徒が安心して検定に臨めるよう3密を避けるための工夫や換気、消毒等の徹底を行い、予定していた高知大会、幡多大会の2会場で【清掃部門】【接客部門】を開催しました。また、各校において【情報部門】の検定も実施しました。

今年度は、県内13校の特別支援学校から129名の生徒の参加がありました。本番では、どの生徒も検定という緊張感の中、それぞれの受検種目に挑み、学校でしっかり学習してきた成果を出し切りました。また、高知大会、幡多大会のそれぞれの会場で企業の方に向けた見学会を開催し、特別支援学校の生徒が、検定に懸命に取り組んでいる様子を見学していただきました。



(接客部門)



(清掃部門)



特別支援教育課のホームページはこちら。

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311001/>



特別支援教育課 特別支援学校担当

TEL : 088-821-4741

Topics
7

山田高等学校の生徒を対象に図書館活用講座を実施しました！

8月3日、オーテピア高知図書館に山田高等学校グローバル探究科の1・2年生26名を迎え、図書館活用講座を実施しました。

講座では、研究テーマに関連する図書館資料の探し方や、Webで公開されている統計資料・研究論文の検索方法を学び、その後、館内ツアー（見学）を行いました。

学んだ内容をもとに、早速必要な資料を熱心に探す様子も見られました。

オーテピア高知図書館では、図書館をより有効に活用いただくため、本の探し方や調べ方、情報リテラシーの向上や探究学習に役立つ図書館活用講座を行っています。ぜひお問い合わせください。



▲ 図書館活用講座の様子



▲ 館内ツアーの様子



詳しくはオーテピア高知図書館ホームページをご覧ください。

<https://kochi-toshokan.hatenadiary.com/>



高知県立図書館 支援協力担当

TEL : 088-802-6005

教育改革テレビ広報番組「くろしおくん presents はばたけ！高知の未来たち」

「第2期教育大綱」及び「第3期教育振興基本計画」に基づく取組の情報を県民の皆さまにお知らせし、本県の教育振興への参画意識が高められるよう、「教育改革テレビ広報番組」を制作、放送します。

今回の番組では、教育大綱の第2次改訂のポイントである「学びをつなげる環境教育の推進」と「グローバルな視点での教育の推進」に関する取組を取り上げます。

先生方や教育関係者の皆さまも、ぜひ放送をご覧ください、本県の教育施策をご確認ください。
また、子どもたちや保護者の皆さまにも放送予定をお知らせいただければと思います。



<放送内容予定>

- 第2次改訂のポイント
- SDGsやカーボンニュートラルをテーマに含めた課題解決型学習
- 自然資源を効果的に活用した環境教育
- 森林環境教育の指導者育成
- 高知県版グローバル教育の推進
- デジタル技術を活用した国際交流の推進
- ICTの活用による英語教育の強化 等

KUTV テレビ高知

本放送予定: 10月29日(土) 12:30~13:00、再放送予定: 11月12日(土) 16:30~17:00



県の教育施策等については、県教育委員会事務局ホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310000/>



教育政策課 教育企画担当
TEL : 088-821-4731

子どもたちや保護者の方の「居場所づくり」をしています

心の教育センターでは、集団で過ごすことや人と関わることに不安があったり、学校に行きにくさを感じていたりする子どもたちや、子育てに悩みのある保護者のための居場所づくりをしています。

活動に興味のある子どもや保護者の方がおいでましたら、ぜひご案内ください。



『ことごとパーク』 ～子どもたちの心の居場所～

遊びや体を動かす活動などを通して、楽しみながら安心して過ごすことのできる場所です。

【開催日】 毎週月曜日 午後3時30分～(1時間)

【場 所】 心の教育センター 2階

【対 象】 小・中・高校生

- ・集団で過ごすことや人と関わることに不安がある
- ・学校に行きにくさを感じている など

【定 員】 各回1～4名程度



『ほっと garden』 ～子育てに悩みのある保護者のための場～

保護者の方々が交流を通して日々をねぎらったり、ほっとしていただいたりする場所です。

【開催日】 毎月1回 日曜日

午後2時～(1時間程度)



※10～12月の開催日※
10月9日、11月13日、12月25日
※1月以降はHPにてご確認ください

【場 所】 心の教育センター

【対 象】 小・中・高校生の保護者

【定 員】 各回6名程度(※2名以上の参加で開催)

【締 切】 開催日前の金曜日 午後4時まで



詳しくは、高知県心の教育センターホームページをご覧ください。
<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311902/>



高知県心の教育センター
TEL : 088-821-9900



お知らせ 1

■高知県高校生津波サミットについて(11/12)

東日本大震災において当時中学生で被災経験をされた方の講演をはじめ、黒潮町の自主防災組織で活動されている方の講話、参加校によるグループワーク、大方高等学校防災委員の案内による黒潮町内フィールドワーク等を実施します。

開催方法は、大方高等学校をメイン会場として、参集方式と Zoom によるオンライン方式を併用する形で実施します。

○問合せ先：学校安全対策課 (Tel : 088-821-4533)

お知らせ 2

■全国高等学校ビブリオバトル 2022 高知県大会 (11/27)

「本の甲子園」と呼ばれる「全国高等学校ビブリオバトル 2022 決勝大会」への出場権をかけて、高知県内の高校生を対象とした高知県大会をオーテピア高知図書館で開催します。

ビブリオバトルとは、お気に入りの本を持ち寄り、その本の魅力を紹介する知的書評合戦です。日頃の読書活動から得た本への熱い思いを、高校生たちが披露します。ぜひ、ご参加ください。

○場所：オーテピア 4階 研修室・集会室

○受付期間：発表者、観戦者ともに 10/4(火)~11/13(日)まで
詳細は、オーテピア高知図書館 Web サイトをご覧ください。



お知らせ 3

■高知県立高知国際中学校夜間学級の生徒募集について

夜間学級は、義務教育を修了できなかった方や、十分受けることができなかった方などに対して、夜の時間帯に授業を行う中学校です。令和5年4月に入学する生徒について、10/3(月)から12/2(金)まで募集します。

なお、夜間学級では、11/14(月)から11/18(金)の期間、授業の見学や入学に関する相談を受け付けています。

詳しくは、高知県教育委員会のホームページをご覧ください。
(「高知県 夜間中学」で検索)



お知らせ 4

■教職員の働き方改革に関する取組の好事例の募集について

教職員・福利課では働き方改革に関する県及び市町村の取組や学校での取組の好事例を収集し、2ヶ月に1度、教職員の働き方改革通信として発信しています。

学校で行っている働き方改革に関する取組の好事例等の情報がありましたら、教職員・福利課まで情報提供をお願いします。

○教職員の働き方改革通信掲載 URL : <https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/310601/2022052600296.html>

○教職員の働き方改革好事例収集フォーム

URL : <https://forms.gle/my3ifBfmtr9BHKk8>

QR コード :



教職員の働き方改革通信

~それぞれの学校から働き方改革を進めましょう~



○連絡先：教職員・福利課 働き方改革推進担当

TEL:088-821-4901 E-Mail:310601@ken.pref.kochi.lg.jp

